

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題 「現代ムスリム知識人の変容と交流」 令和4年度第1回研究会

日時 令和4年9月25日日曜日

午後1時～午後14時30分

場所 Zoomによるオンライン開催

報告

横田貴之（AA研共同研究員、明治大学情報コミュニケーション学部）

「ムスリム同胞団におけるハサン・バンナーの現代的位相-内部対立に反映される思想的正統性」

※公開（参加者9名）

本研究会では今日、2013年以降のエジプトにおけるムスリム同胞団をめぐる状況を通して、運動体における「知識人」受容のあり方について検討がなされた。

とりわけ2015年頃より、エジプトにおけるムスリム同胞団の凋落は顕著である。この状況下、同胞団内部では分裂が見られ、特にトルコ・英国での在外団体の活動はエジプト国内のそれと異なる志向性を帯びている。こうした中、各組織はそれぞれが正統なる同胞団としての存在意義の維持を目指し、その一環で創始者ハサン・バンナーの発言を引用し、また彼をはじめとした歴代指導者の殉教関連の催しが活況を帯びている様子などが説明された。もともと、各団体を率いる新世代に「知識人」に相当する人物は見当たらず、上記の活動展開は、いわば知識なき者による「知識人」利用とも呼びうる様相も呈している。

質疑では、ムスリム同胞団研究自体の動向や今後の発展可能性、殉教関連行事の変遷、バンナーの知識人としての利用の範囲や背景など、多岐にわたる議論がなされた。

（了）